

「地震の化石」という言い回しについて - fossil と化石ということばの歴史

Fossil earthquake? history of kaseki meaning

矢島 道子 [1]

Michiko Yajima[1]

[1] GUPI

[1] GUPI

現在、fossil あるいは化石は「過去」の「生物」を語る「もの」のことをさし、意味は同じである。日常の生活でよく使われていて、科学的用語とは思われていないこともある。

化石ということばの歴史を調べてみると、化石は古いことばで、たくさんの意味が含まれてきた。ヨーロッパの諸語で fossil (フォッシル) とは、ラテン語の動詞 fodio (掘る) の過去分詞 fossus から形容詞化した fossilis 「掘り出されたもの」に由来する。だから、英語でもフランス語でも、ドイツ語でも、ヨーロッパの多くの言葉で Fossil が使われている。

fossilis とは、「掘り出されたもの」という意味だから、鉱物や人類の遺物や宝石などいろいろなものがフォッシルに含められていた。「鉱物学の父」と呼ばれたアグリコラ (Georgius Agricola) は、鉱物も、フォッシルのなかまにいていた。現在は、鉱物や人類の遺物や宝石などいろいろなものを排して、生物起源のものだけが Fossil と呼ばれている。

日本語の化石という言葉も長い歴史を持っている。「化石」は日本で作られた言葉である。中国語の文法からいって「石に化けたもの」を「化石」とは言わない。では中国語では何というか。きょう (いちたに彊の右側) と言っていた。きょうとは死んで固くなるという意味を持つ古い字である。「化石」という言葉は日本で作られ、中国に逆に輸出されたことになる。

江戸時代、木内石亭 (1724-1808) の時代にはいろいろな形に似ている石を化石と読んだものが多い。江戸時代後期から明治時代にかけてヨーロッパの文化が輸入され、日本で最初の地質学の教科書がつくられた。言葉としては化石またはきょう石が使われ、意味としては「化石」とは「過去」の「生物」を語る「もの」であることは確立していた。

化石とは現在の定義では、生物起源のものしか言わないのだが、世の中には、「波の化石」や「雨の化石」ということばが使われることがある。これはどうやら、化石を人々によくなじむものにしたいとして紹介されたものらしい。地質学の大家ですら、漣痕や雨痕などを化石といって楽しんでいたことを紹介したことが、紹介した人の意志をこえて流布したのかもしれない。これには「化石」という文字も大きく加担していよう。「地震の化石」という言葉もこの流れにあるのではないだろうか。